

**【事例 7】交通安全専門指導員事業（鹿児島県霧島市）**

老人クラブ、老人介護施設等においても、交通安全指導を実施することで幅広い高齢者の意識を啓発。老人クラブ等に参加していない高齢者には、民生委員を通じた参加呼びかけや、交通安全教室の参加を「健康マイレージ事業」のポイント対象とすることで、参加を促進

**1. 取組内容****（1）取組の背景と目的**

- ・平成17年11月7日、国分市と始良郡溝辺町・横川町・牧園町・霧島町・隼人町・福山町の1市6町が合併して霧島市が誕生し、合併と同時に霧島市における交通安全専門指導員事業が開始された。
- ・元々は、旧国分市や隼人町で、古くから交通安全専門指導員事業（指導員各1名配置）を実施しており、合併に伴い、霧島市全域で事業を開始することとなった。ただし、合併に伴う拡張（603.15 km<sup>2</sup>）と交通安全対策の更なる推進という方針を踏まえ、交通安全専門指導員を4名配置して実施することとなった。
- ・事業の目的は、事業開始当初から変わらず、交通安全に対する市民の意識啓発等であるが、10年の間に事業内容を見直し、進化させている。

**（2）実施内容**

- ・交通安全専門指導員4名は、警察や自衛隊のOB（嘱託職員）から構成されており、専門指導員が、老人クラブやデイケアを訪問し、事事例を交えながら、交通事故に遭わない横断方法や正しい運転方法等の交通安全指導を行っている。
- ・開催時間は1時間程度であり、交通安全専門指導員又は警察による講話が15分、DVDの放映が20分（安全な歩行等）、実技指導25分程度の構成である。80歳を超える高齢者も参加するため、1時間程度が限界ではないかと考えている。
- ・専門指導員と老人クラブの代表者やデイケアの担当者が日程を調整し、開催日時を決定するが、指導内容については、老人会・デイケアの要望や近隣で発生した事故の傾向等を基に、専門指導員が検討する。高齢者が交通安全の必要性を実感しやすいよう、近所で発生した事故等について地元警察からデータの提供を受け、指導内容に盛り込むようにしている。
- ・また、鹿児島県警察本部が所有するドライビングシュミレータ（運転適性診断装置等）が搭載された「さわやか号」を利用できる時（年30回程度）には、実際の運転場面を想定したシュミレータを使用し、運転免許保有者に、参加・体験型の交通安全指導を行っている。さらに、シートベルトコンビンサーを使い、事故時にシートベルトを装着していた場合の効果を疑似体験する等の参加・体験型指導も行っている。
- ・他にも、地元警察経由で自動車教習所の協力を得て、夜間教習所を利用できる時には、自動車教習所指導員が、反射材の有効性、飲酒運転の危険性等について話をする。

### (3) 連携先機関

- ・ 警察、交通安全協会、民生委員、老人クラブ、デイケアと連携して事業を実施している。
- ・ 民生委員については、「交通安全教室に参加してください」等の参加の呼び掛けや、民生委員を通じた反射材の配布（65歳対象）を行っている。老人クラブ等の地域組織に所属していない高齢者については、2～3年前から民生委員を通じてコンタクトしている。
- ・ また、教育委員会が主催している霧島市舞鶴大学・大学院（生涯学習講座）において、健康関係の講座が開設される際には、交通安全専門指導員が訪問し、講座の一部で、交通安全指導を行っている。

連携先機関名	役割分担
警察	(参加可能な時は) 講話を担当
交通安全協会	(参加可能な時は) 技術指導を担当
民生委員	交通安全教室等への参加の呼び掛け 65歳の高齢者を対象とした反射材の配布等
老人クラブ	交通安全指導実施日の調整、実施内容の相談
デイケア	交通安全指導実施日の調整、実施内容の相談
霧島市舞鶴大学・大学院	生涯学習講座において健康関係の講座で交通安全指導を実施

### (4) 事業体制

- ・ 事業は、交通安全専門指導員4名が主体となって実施し、可能な範囲で、警察からの参加も得ている。
- ・ 交通安全専門指導員は、企画立案、講話、実技指導、DVDの放映等を行う。交通安全協会や警察からの参加が得られる場合は、交通安全協会の担当者が実技指導、警察の担当者が講話を行う。

当該事業予算	7,021千円
本事業担当職員数	4人(交通安全専門指導員)

## 2. 取組の成果・効果

### (1) 実績

- ・ 平成26年4月から平成27年1月末迄に、老人クラブで51回(参加者数1,800名)、老人介護施設、病院等で25回(参加者数400名)開催した。
- ・ 昨年と比べ、実施回数は同程度だが、参加者数は、200名程度増加した。

### (2) 成果

- ・ 当初の想定どおりの成果・効果が得られ、交通安全に対する意識の高まり等が見られた。
- ・ 交通事故件数も減少傾向にある。市内の交通事故件数の推移は以下のとおり。

	平成24年	平成25年	平成26年
交通事故件数	976	944	840
うち高齢者が関係した交通事故件数	318	305	313

- ・ 実際に発生した事事例や事故後の影響等について具体的な話をする事により、運転時の心構え等を再認識してもらうことができた。また、反射材の使用着用も事故防止に繋がっている。

### 3. 取組における課題・留意点と工夫点

#### (1) 課題・留意点

- ・ 事業費は指導員の人件費が大部分であり、信号機等も段ボールを活用した手作りの備品である。より指導しやすいよう、備品を整えたいが、十分な予算確保が難しい。
- ・ また、成果の適正な評価も困難である。

#### (2) 取組における工夫点

- ・ 参加者を増やすため、老人クラブの代表者宅へ、5月頃に、一斉に交通安全教室申込用紙を発送し、申し込みのない老人クラブには、直接電話をかけて申し込みを促している。電話をかける際には、過去の開催月を伝えて、「今年はいつ頃開催するのが良いか」等を聞くようにしている。また、単独での開催が困難な老人クラブもあるため、地区公民館長を通じて呼びかけている。
- ・ 6月頃から指導を始めるが、8月は猛暑のため開催を避けている。
- ・ 健康増進課が主催する高齢者を対象とした催し物や、スポーツ大会等において、併せて交通安全指導を取り入れてもらうことで、参加者を確保している。
- ・ また、健康増進課の「健康マイレージ事業」のポイント対象事業に交通安全教室を含めてもらい、老人クラブ未加入者の参加促進を図っている。具体的には、交通安全教室に参加すれば1ポイント獲得でき、6ポイント貯まると、抽選で健康グッズが当たる仕組みである。

#### (3) 今後の課題・展望

- ・ 今後の大きな課題は、交通安全教室等に参加しない高齢者にどのようにアクセスするかという点である。民生委員を活用した取組を進めてはいるが、民生委員を通じてもアクセスが困難な高齢者の参加をいかにして促すかが課題である。

### 4. 取組の状況

#### 取組の状況



交通安全講話



交通安全教育車「さわやか号」

【取組事業を紹介したインターネットサイト】  
[https://www.pref.kagoshima.jp/ja23/police/koutuu/kyoiku/koutsukikaku\\_03.html](https://www.pref.kagoshima.jp/ja23/police/koutuu/kyoiku/koutsukikaku_03.html)

市町村人口 (平成 26 年 4 月 1 日)	交通事故死者数		
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
127,259 人	4 人	4 人	5 人
	うち高齢者数 4 人	うち高齢者数 3 人	うち高齢者数 4 人

【本件問い合わせ先】

鹿児島県霧島市

総務部安心安全課交通防犯グループ

0995-64-0997

**【事例 8】世代間交流交通安全教室（岐阜県郡上市）**

普段あまり接点のない高齢者と幼児が参加・体験・実践型の交通安全教室を通じて触れ合うことで交通安全意識の向上を図るとともに、互いを思いやる優しい気持ちを醸成

**1. 取組内容****（1）取組の背景と目的**

- ・ 岐阜県郡上市では、従来、高齢者向けと幼児向けの交通安全教室をそれぞれ別々に開催していたが、単に「学ぶ」だけでは交通安全に対する意識づけが弱いと考えていた。
- ・ こうしたなか、普段交流がない両者が一緒になって楽しく学ぶことを通じて交通ルール遵守の大切さを伝えるなど、交通安全意識を高めるとともに、お互い「交通事故に遭わせない」といった思いやりの気持ちを醸成させることを目的として、世代間交流型の交通安全教室を開催することとした。

**（2）実施内容**

- ・ 本事業は、岐阜県警察本部が県内各地で開催している「高齢者交通安全大学校」において実施している。
- ・ 高齢者交通安全大学校とは、国家公安委員会の定める交通安全教育指針に基づいて作成された年間教育カリキュラムのもと、参加・体験・実践型の交通安全教育を複数回にわたって集中的に実施するものである。平成 11 年、岐阜南警察署が岐阜市内の一小学校区において開校したところ、高齢者に対して系統的かつ継続的に交通安全教育を実践できる点が高く評価され、翌平成 12 年度からは県警本部の施策として実施されるようになり、県内他地域に広まっていった。
- ・ 郡上市においても、毎年、市内の自動車教習所を借り切って大学校を開校しており、5 月～翌年 3 月までの間に以下のような講習会を計 11 回開催している。

**<高齢者交通安全大学校のカリキュラム（例）>**

- シルバー・セーフティスクール（高齢歩行者等実技講習）：高齢者を教習用自動車に同乗させて、ドライバーからみた歩行者、自転車運転者の危険行動などを体験
  - シルバー・ドライビングスクール（高齢運転者実技講習）：運転機能を診断（加齢により運動能力や運転技術が低下していないか等）
  - ピカピカ体験教室：夜間外出時における交通安全意識の向上を図るため、夜光タスキ・反射テープ・自転車装着用反射材等といった反射材用品の交通事故防止効果を体験（ゴーグルライトを使用）
- ・ 高齢者と幼児が触れ合う世代交流型の交通安全教室は年に 1 回実施している。まず、高齢者、幼児が各世代の特性に応じた講習を別々に受けた後、両者が一緒になって正しい横断歩道の渡り方を学ぶなど、参加・体験・実践型の講習を実施。終了後には、高齢者と幼児との間でプレゼント交換を行ってさらに交流を深めている。

世代交流型の交通安全教室の講習内容

講習区分		講習内容	講師
世代別講習	高齢者向け	・ 歩行シミュレータを体験 ・ ゴーグルライトを使って反射材の効果体験	・ 自動車学校 ・ 市の交通安全指導員 ・ 郡上警察署
	幼児向け	・ 危険な音などを体験（踏切・バックするトラック等）	・ 市の交通安全指導員
世代交流型講習 （高齢者・幼児合同）		・ 死角体験（自動車運転者から見てどこが死角になるのかを体験） ・ 信号のない横断歩道や信号のある交差点、踏切等の渡り方を実践	・ 自動車学校 ・ 市の交通安全指導員 ・ 郡上警察署

(3) 連携先機関

- ・ 高齢者交通安全大学校の実施主体である警察のほか、地元のシニアクラブ、幼稚園・保育園、自動車学校などと連携しながら本事業を実施している。

連携先機関名	役割分担
郡上警察署	交通安全教室の講師（対高齢者、対幼児）
交通安全指導員	交通安全教室の講師（対高齢者、対幼児）
交通安全協会	講師のサポート
シニアクラブ	参加する高齢者の募集
幼稚園・保育園	参加する幼児の募集、引率
郡上自動車学校	大学校の開催場所の提供、教習用自動車の貸し出し

(4) 事業体制

当該事業予算	400千円
本事業担当職員数	非常勤 1人

2. 取組の成果・効果

(1) 実績

- ・ 自動車教習所の施設規模などの関係から、一度に市内全域を対象にした大学校の開催は難しい。このため、市内7地区を毎年巡回することで市内を満遍なく均一にカバーできるよう、複数年にまたがる事業計画を作成し、現在実施しているところである。
- ・ 参加者数は開催地区にもよるが、高齢者、幼児がそれぞれ30~40人程度。

(2) 成果

- ・ 高齢者が子供の安全を「守る」「教える」立場を経験することで、交通安全意識がより高まっている。
- ・ なお、市内の交通事故件数等の推移は以下のとおりである。

	平成24年	平成25年	平成26年
交通事故件数	173件	137件	98件
65歳以上高齢者の死者数及び負傷者数	59件	46件	33件

### 3. 取組における課題・留意点と工夫点

#### (1) 課題・留意点

- ・ 高齢者の中でも 70 歳以上の参加が多い。こうしたことから、四世代交流というあまりみられない交流を通じて地域の輪を広げていきたい。
- ・ 幼児には、高齢者の身体の老いを理解し、思いやりの気持ちをもって優しく高齢者に接してほしいし、高齢者には子供達の見本となってもらいたい。本事業では、高齢者・幼児の双方においてこうした交通安全意識の高揚を目指している。

#### (2) 取組における工夫点

- ・ 参加者の募集にあたっては、シニアクラブや幼稚園・保育園を通じて同一地区内に居住する高齢者と幼児に呼びかけを行っている。
- ・ こうすることで、学んだ“その場限り”ではなく講習会後も、街中で出会った際には高齢者が顔見知りになった幼児に交通安全の注意を促したり、お互い挨拶を交わすなど、従来にはなかった世代間交流効果が期待できる。

#### (3) 今後の課題・展望

- ・ シニアクラブの加入率は半分程度であり、市内の全高齢者に広報・PR できているわけではない。シニアクラブ未加入者や高齢者交通安全大学校のような啓発活動に参加しない人が、交通事故の被害に遭う可能性が高いと考えられることから、今後は引きこもりがちの高齢者等に対していかに啓発していくかが重要になってくる。
- ・ また、地域のコミュニケーションの場が減少しつつある今こそ、普段関わることのない世代間交流を図ることで、お互いを思いやる気持ちや、交通ルールを遵守して命を守る大切さを学ぶ必要があると感じている。

### 4. 取組の状況

【世代間交流型交通安全教室の様子】



市町村人口 (平成 27 年 3 月 1 日)	交通事故死者数		
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
44,418 人	3 人	2 人	1 人
	うち高齢者数 1 人	うち高齢者数 1 人	うち高齢者数 1 人

【本件問い合わせ先】

岐阜県郡上市 総務部 総務課 危機管理係 0575-67-1832

## 【事例 9】出前講座（交通安全講話）等における、ゆるキャラ活用型交通安全（愛知県豊川市）

実際に地元で起きている交通事故等の話をするとともに、身につけやすいゆるキャラの反射材（交通少年団のメッセージ入り）を配布

### 1. 取組の概要

#### （1）取組の背景と目的

- ・ 豊川市では、市が行っている仕事の中で、市民が知りたい、聞きたいと思う内容について、担当する職員が出向き、仕事の内容等の話をする出前講座を実施している。
- ・ 出前講座は、「市の計画・プラン」、「教育・文化」、「産業・経済・観光」、「社会福祉・社会保障」、「健康増進・疾病予防」、「エコ・リサイクル」、「安全・安心・防災」、「市民活動・健全育成」の 8 分野から構成されており、「安全・安心・防災」に関わる出前講座の一つとして、高齢者向けの出前講座（交通安全講話）を実施している。
- ・ 高齢者向けの出前講座（交通安全講話）は、6 年以上前から直轄事業として実施しており、交通安全に対する高齢者の意識啓発や高齢ドライバーに対する指導（事故加害者となるリスクの軽減）等を目的としている。
- ・ 上記のような出前講座において反射材について話をする際や、高齢者自転車教室等のイベントにおいて、実際に反射材を配布することがあるが、その際、単なる反射材ではなく、豊川市のゆるキャラである「いなりん」を描いたお守り型の反射材にし、お守りの中に市内の交通少年団、防犯少年団のメンバー約 50 名が書いたメッセージを添え、高齢者が身につけやすい反射材としている。

#### （2）実施内容

- ・ 出前講座の利用対象は、原則として、市内に在住・在勤・在学の 10 名以上で構成された団体やグループである。最低・最大参加者数等は設定していないが、出前講座の依頼のある団体・グループは、老人クラブが多いため、参加者が 100 名を超えることはない。そのため、会場は、市民会館や公民館が多い。
- ・ 市のホームページや老人会等に、出前講座に関わる周知を行い、通年で、団体・グループからの利用申込みを受け付けている。
- ・ 出前講座の依頼があると、まずは、団体・グループの担当者と市の職員が打合せを行い、講座内容について希望の聞き取りを行う。基本的に、団体・グループの希望に沿った内容で出前講座を実施することにしており、実際に地元で起きている交通安全に関する問題点や希望する講座内容等を聞き取り、地元での生活に直接活かせるような講話を心がけている。
- ・ 出前講座の開催時間は 30 分程度である。開催時間帯は、平日の 10 時～17 時頃の間の 30 分程度である。老人クラブの総会や定例会等の前後に開催することが多く、講話のためだけに集まることはない。